

<白石町議会>

白石町は平成17年に旧白石町、旧福富町、旧有明町の3町が新設合併した。現在、人口約2万5千人(合併時より約2千700人減)の町である。農業主体の町で、農地5500haは佐賀県の10%にあたる。玉ねぎの生産は全国第2位で生産高は37億円にのぼる。

合併当初46名いた議員は現在18名、3常任委員会で構成している。議員から「議会の活性化、運営改善に関する提言書」を集めて、平成21年に「議会活性化特別委員会」を設置した。種々の検討を重ね、23年9月議会で「議会基本条例」を可決、同年12月より施行した。議員報告の定例化、議案の傍聴者貸出、議会アンケート募集、ケーブルテレビによる議会中継放送と夜の再放送、議会出前講座開催など議会活性化に努めていた。



議員研修(TPPについて)と伊良原ダム建設現場視察に参加して

京都郡町議会議長会主催議員研修 7月12日/行橋京都自治会館 4F

上毛町議会伊良原ダム視察 7月12日/京都郡犀川町ダム工事現場

宮本 理一郎

京都郡並びに築上郡の町議会議員を対象に、(財)日本関税協会調査・研究グループ担当部長(東海大学海洋学部非常勤講師)である宮崎千秋氏による講演を中心とした議員研修が催され、本町より6名の議員が参加した。

TPPは日本にとって14番目のEPA(経済連携協定)であり、その影響は過大評価すべきではないが、日本経済の活性化にとっては、望ましい影響がでるであろうと考えられる。

国内的に受け入れが困難な農林水産品の市場アクセスなどについては、交渉を通じて、除外品目、関税撤廃期間、セーフガードなどの条件闘争をする必要がある。

「これから日本が参加して意味があるのか」という点については、情報収集に努め、十分な国民的議論を経た上で、国益の観点に立って、結論を得ていく必要があるであろうとのことであった。

研修終了後、行橋市内より程近いみやこ町犀川の伊良原ダムを見学し、建設事務所長による工事の進捗状況を現場の要所にて説明を受けた。ダムは重力式コンクリートダムとして高さ83メートル、総貯水容量2,870万 m^3 (県下2番目の規模)で、洪水調整、取水の安定化、河川環境の保全、水道用水の供給を目的としているが、本町を含めた京築地区及び田川地区に対しても1日37,000 m^3 の取水も可能ならしめることとなる。しゅん工は29年であるが、建設のために100戸あまりが湖底に沈むが、代替地に集団移転し、すでに新たな生活が始まっていた。4年後の完成を目指しているとのことであった。



伊良原ダム完成予想図(貯水池側)

委員長研修

平成25年6月27・28日

三田 敏和

議運委員長、各常任委員会の委員長研修がさる6月27日~28日にかけて、佐賀県武雄市行政視察、白石町議会研修に参加したので、概要を報告する。

<武雄市>

武雄市は平成18年に旧武雄市、旧山内町、旧北方町の1市2町が新設合併した人口約5万人のまちです。樋渡啓祐市長は44歳、東大卒業後、総務庁に入庁、高槻市市長公室長(出向)を経て、現在二期目の舵取りをしている。市長の話の聞くと、高校時代隣の町長をみて面白いと感じ「首長になりたい」と夢を抱いたようだ。

訪問してびっくりしたのは、スーパークールビズ(ポロシャツ・短パン・サンダル)の職員を見たときであった。

武雄市図書館

市役所で説明を受け、今年4月より指定管理を導入した武雄市図書館を視察した。「年中無休で、DVDやCDもレンタルでき、開放的な館内でコーヒーを飲みながらページをめくれる」現実だ!「こんな図書館があって良いのだろうか」目が点になった。運営はレンタル大手「ツタヤ」を展開するカルチャー・コンビニエンス・クラブ(CCC)、「もっと多くの方に利用していただきたい」これが市長のコンセプト、賛否両論ある中、行政でできないので民間の力を借りた。蔵書数も1.3倍になるが市民の期待は、機能面では開館時間(9時~21時1.5倍)と開館日(365日1.1倍)、サービス面ではスターバックスの導入、映画・音楽レンタルの導入が目玉を引くようだ。2ヶ月実績は、来館者数は4.6倍の3000人/日、図書貸出数は2倍の1650冊/日、圧巻である。



起業・創業支援

「収益性の高い、やりがいのある農業の確立」を目指しレモンガラスの特産品化に取り組む。東南アジア原産のハーブ「レモンガラス」に着目(有害鳥類の被害が少ない)し、平成19年、市の職員2名が主要生産国タイへ栽培技術・加工方法の習得に渡った。比較的軽作業での栽培が可能で、高齢化の進む中山間地域に適作であることが立証された。反当たり収益も米を上回る結果がでて、法人設立による新事業に展開している。